

トルコ語のモダリティ¹⁾

菅原 睦

- (1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ.

(İş-iniz bit-ince) Gid-ebil-ir-siniz.
 仕事-POSS.2PL 終わる-CONV 行く-PSB-AOR-2PL

動詞語幹+-(y)Abil-²⁾によりいわゆる可能語幹が作られる. 可能語幹はこの例のような許可の他に, 能力や可能性をあらわすためにも用いられる. cf. (13), (17).

- (2) (腐っているから, あなたは) それを食べてはいけない. / それを食べるな.

O-nu ye-me-meli-siniz / ye-me-yin (çünkü çürük).
 それ-ACC 食べる-NEG-OBLG-2PL / 食べる-NEG-IMP.2PL なぜならば 腐っている

禁止は通常, 否定語幹と義務形接尾辞 (-mAlI) の組み合わせ(「…しないことが必要だ」), または否定語幹と命令形接尾辞との組み合わせであらわされる.

- (3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない.

(Geç ol-duğ-un-dan) Biz artık dön-meli-yiz
 遅い なる-PART-POSS.3SG-ABL 私たち もう 帰る-OBLG-1PL
 / dön-mek zor-un-da-yız.
 / 帰る-VN 強制-POSS.3SG-LOC-1PL

スラッシュの左は動詞の義務形, 右は動名詞と zor 「強制」との組み合わせを用いて表現した例である. 後者は文字通りには「帰るという強制の中にいる」を意味し, 不可避的な義務をあらわす.³⁾ なおそれぞれの文末にある -yiz/-yız を, 対応する過去のコピュラ 1

¹⁾ 本稿の作成にあたり Nilgün Yavuz さん (アンカラ大学. 2010 年 8 月から 2011 年 2 月まで本学外国人研究者) のご協力を得たことに深く感謝したい. むろん誤りはすべて菅原の責任である.

²⁾ 以下, 大文字は子音の同化や母音調和による交替 ($D = d/t$; $K = k/g$; $I = i/ü/ü$; $A = e/a$) を示す.

³⁾ ただし「強制」という意味で今日普通に用いられる語は zor よりもむしろ zorunluluk である. なお Göksel - Kerslake (2005: 351-352) は, 義務形が話し手から発する義務 (speaker-generated obligation) をあらわすのに対し, zorunda を用いた表現は外的な要因によ

人称複数形 *-ydik/-ydık* に変えた *dönmeli-ydik / dön-mek zorunda-ydık* では、前者「帰るべきであった」が実際には帰らなかったことを含意するのに対し、後者「帰らざるを得なかった」にはそのような含意はない。

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

(Yağmur yağ-acak-mış. Bu neden-le) Şemsiye-yi yan-ınız-a
 雨 降る-FUT-EV.COP この 理由-INSTR 傘-ACC 側-POSS.2PL-DAT
 al-ır-sa-nız iyi ol-ur.
 とる-AOR-COND.COP-2PL よい なる-AOR

文字通りには「傘をもつならばよくなる」。「勧める」を意味する動詞 *tavsiye et-* の例として *Zaman-ınız var-sa spor yap-ma-nız-ı tavsiye ed-er-im*. 「時間があればスポーツをすることを勧めます」(時間-POSS.2PL ある-COND.COP スポーツ する-VN-POSS.2PL-ACC 勧める-AOR-1SG) をあげておく。

(5) お年寄りには敬意を示すべきだ。

Yaşlı-lar-a saygı göster-il-meli / göster-meli-yiz.
 老人-PL-DAT 敬意 示す-PASS-OBLG / 示す-OBLG-1PL

スラッシュの左側は動詞「示す」の受身形を用いて無人称的にあらわした例、右側は同じ動詞の1人称複数の形を用いて普遍人称的にあらわした例である。

(6) (お腹が空いたので、私は) 何か食べたい。

(Karn-ım acık-tığ-ın-dan) Bir şey ye-mek isti-yor-um.
 お腹-POSS.1SG 空く-PART-POSS.3SG-ABL ある もの 食べる-VN 欲する-PRES-1SG

「～したい」は動名詞(語幹 + *-mA*) と動詞 *iste-*「欲する」とであらわされる。

(7) 私が持ちましょう。

Ben tut-ayım.
 私 もつ-OPT.1SG

る義務 (objective obligation) をあらわすとしている。またこの他に外的な要因による義務の表現として、動名詞を主語とし *lazım / gerek* 「必要である」などを述語とする (*biz-im dön-me-miz lazım / gerek* 「(私たちの) 帰ること (帰る-VN-POSS.1PL) が必要である」) のような形式もある。

相手のかばんを自分が持って運ぶような場合には動詞 *taşı-*「運ぶ」を用いて *Ben taşıyayım.* 「私が運びましょう」となる。

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

Haydi beraber öğre yemeğ-i yi-yelim.
 さあ 一緒に 昼 食事-POSS.3SG 食べる-OPT.1PL

-yelim は (7) の *-ayım* に対する 1 人称複数の形式である。それぞれ願望形の接尾辞 *-(y)A* と人称をあらわす *-yIm* (1 人称単数) / *-IIm* (1 人称複数) とに分けて扱うこともできるが、2 人称・3 人称の形式は今日あまり用いられない。

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか。

Beraber yemek yi-yelim mi?
 一緒に 食事 食べる-OPT.1PL INT

Beraber yemek ye-r mi-siniz / ye-mez mi-siniz?
 一緒に 食事 食べる-AOR INT-2PL / 食べる-NEGAOR INT-2PL

前者は (8) に対応する疑問文である。後者では動詞中立形（肯定／否定）の疑問による依頼の表現が用いられている。cf. (12).

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

Yarın hava güzel ol-sun.
 明日 天気 よい なる-IMP.3

Yarın hava-nın güzel ol-ma-sı-nı isti-yor-um.
 明日 天気-GEN よい なる-VN-POSS.3SG-ACC 欲する-PRES-1SG

前者には 3 人称命令形が用いられている。cf. (25)。後者は (6) と同じく動名詞と動詞 *iste-* 「欲する」とによる文であるが、動名詞の主語が *iste-* の主語と異なる。このような場合には動名詞の主語は所有格であらわされ、動名詞（語幹 + *-mA*）には対応する所属人称接尾辞が付される。また (6) のタイプと違い動名詞は対格接尾辞を伴う。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

Hemen on-u getir-Ø.
 すぐに それ-ACC 持って来る-IMP.2SG

Hemen on-u getir-in, lütfen.
すぐに それ-ACC 持って来る-IMP.2PL どうか

2人称単数に対する普通の命令は動詞語幹と同形となる。より丁寧な命令には、後者のように2人称複数に対する命令のかたちである「語幹+ *-(y)In*」が用いられる。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか。
Şu kalem-i ban-a ödünç ver-ir mi-siniz?
その ペン-ACC 私-DAT 貸す-AOR INT-2PL

依頼の表現には動詞中立形（アオリスト形）の疑問文が用いられる。丁寧度の異なるヴァリエーションとして、可能語幹の中立形を用いた *ödünç verebilir misiniz?* やその否定形（不可能語幹の中立形）を用いた *ödünç veremez misiniz?* などがある。

(13) あ的那个人は中国語を読むことができます。
O Çince oku-yabil-ir / ok-ur.
彼 中国語 読む-PSB-AOR / 読む-AOR

能力可能は可能語幹を用いてあらわされるが、スラッシュの右の例のように中立形だけでも語用論的な含意（「彼は恒常的に読む」→「彼には読む能力がある」）により主語の能力をあらわすことができる。

(14) 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。
Işık yetersiz ol-duğ-un-dan bura-da ne yaz-dığ-ın-ı
光 不十分 ある-PART-POSS.3SG-ABL ここ-LOC 何 書く-PART-POSS.3SG-ACC
oku-yamı-yor-um.
読む-IPSB-PRES-1SG

ここでは、不可能語幹（動詞語幹+*-(y)AmA-*）の現在形が用いられている。不可能語幹は、共時的には可能語幹を作る接尾辞 *-(y)Abil-* の異形態 *-(y)A-*+否定の接尾辞 *-mA-* と分析できる。⁴⁾ 能力可能・状況可能の否定「…できない」のほかに、許可の否定「…することは許されない」にも用いられる。また動詞 *ol-*「…である、…にいる」の場合には「あり

⁴⁾ 接尾辞 *-(y)Abil-* に否定接尾辞 *-mA-* は後続しない。これに対応するかたちはアゼルバイジャン語に *-(y)ə bilmə- / -(y)a bilmə-* として見られる。

えない」という可能性の否定の意味でも用いられる。⁵⁾ より明示的な状況可能の表現としては次のような例がある。

Bura-da yüz-ül-mez. 「ここでは泳げない」
 ここ-LOC 泳ぐ-PASS-NEGA.AOR

Bura-da yüz-mek mümkün değil. 「ここでは泳げない」
 ここ-LOC 泳ぐ-VN 可能だ でない

前者は動詞「泳ぐ」の受身形を用いた無人称表現、後者は同じ動詞の動名詞形を主語とする表現である。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ (もう着いたに違いない)。

(Sabah erken yol-a çık-tık-ların-dan)
 朝 早く 道-DAT 出る-PART-POSS.3PL-ABL
 On-lar artık ulaş-mış ol-malı / ulaş-mış-tır.
 彼-PL もう 着く-PART ある-OBLG / 着く-PART-MOD

確信をあらわすために、スラッシュの左の例では「…である, …にいる, …になる」を意味する動詞 *ol-* の義務形 *olmalı* が、右の例では確信 (および推量) を示す付属語 *-Dir* が用いられている。*ulaşmış* は動詞 *ulaş-* 「着く」の間接過去形と同形であるが、ここでは完了の形動詞でありそれ自身がモダリティーをあらわすものではない。⁶⁾

(16) (あの人は) 今日はたぶん来ないだろう。

Bugün belki gel-me-yecek-tir / gel-mez.
 今日 たぶん 来る-NEG-FUT-MOD / 来る-NEGA.AOR

前者では未来形、後者では中立形 (アオリスト形) が用いられているが、両者は推量の根拠となる情報の性質によって使い分けられる。比較: *Bugünkü partiye belki gelmeyecektir. Çünkü şu günlerde çok meşgul.* 「彼は今日のパーティーにたぶん来ないだろう。最近とても忙

⁵⁾ これに対して、否定語幹に接尾辞 *-(y)Abil-* が後続する *-mAyAbil-* は、否定の許可「…しなくてよい」または否定の可能性「…しない可能性がある」の意味で用いられるのが普通である。

⁶⁾ 対応する直接過去形 (直接経験をあらわす) *ulaştı* が動詞 *ol-* や付属語 *-Dir* とともに用いられないことに注意されたい。

しいから」(未来形)に対し, *Bugünkü partiye belki gelmez. Çünkü böyle yerleri sevmez.* 「彼は今日のパーティーにたぶん来ないだろう. こういう場所が嫌いだから」(中立形).

(17) 彼らがまだ来ないなんて, もしかしたら途中で車が壊れたんじゃないか.

(On-lar hâlâ gel-me-di.) Belki de yol-da araba-ları bozul-du.
彼-PL まだ 来る-NEG-PAST もしかしたら 道-LOC 車-POSS.3PL 壊れる-PAST

belki de は *belki* 「たぶん, おそらく」よりも低い可能性をあらわす. 上の文とほぼ同じ内容は, 完了の形動詞 *bozulmuş* と動詞 *ol-*「ある」の可能の中立形 *olabilir* とを用いて *Yol-da araba-ları bozul-muş ol-abil-ir.* (道-LOC 車-POSS.3PL 壊れる-PART ある-PSB-AOR) のようにも表現できる.

(18) さあ, (屋間だからあの人(は)家に) いるかもしれないし, いないかもしれない.

Bil-me-m, ev-de ol-ablil-ir, ol-ma-yabil-ir de.
知る-NEGAOR-1SG 家-LOC いる-PSB-AOR いる-NEG-PSB-AOR CONJ

bilmem 「私は知らない」は, この例のように「さあ(どうだろう)」ぐらいの意味で用いられることがある.

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ.

Anlaş-ıl-an, ateş-iniz var gibi.
理解する-PASS-PART 熱-POSS.2PL ある ようだ

anlaşılan は文字通りには「理解されること(は)」であるが, 「どうやら」の意味で文副詞的にも用いられる. *gibi* は後置詞であり通常は名詞句の後に置かれるが, この例のように述語の後に置かれることもある.⁷⁾

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ.

(Hava rapor-un-a göre) Yarın yağmur yağ-acak-mış.
天気 報告-POSS.3SG-DAT よれば 明日 雨 降る-FUT-EV.COP

この例では動詞の未来形と証拠性のコピュラ *-(y)mış* とによって, 伝聞による未来の事柄があらわされている. 伝聞による現在の事柄も同様に, 動詞現在形と証拠性のコピュラ

⁷⁾ 別の語類と見なすことも考えられる.

とによって *Yağmur yağ-ıyor-muş*. 「雨が降っているそうだ」となる。これらに対し、伝聞による過去は動詞の間接過去形（語幹+ *-miş*）であらわされる：*Dün yağmur yağ-mış*. 「昨日雨が降ったそうだ」。

(21) もしお金があったら、あの車を買うんだけどなあ。

Para-m ol-sa-ydı o araba-yı al-ır-dı-m.
金-POSS.1SG ある-COND-PAST COP あの 車-ACC 買う-AOR-PAST COP-1SG

反実仮想は、条件節に「仮定形+過去のコピュラ *-(y)DI*」、帰結節に「中立形（または未来形）+過去のコピュラ *-(y)DI*」を用いることであらわされる。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

Siz öğret-me-se-ydi-niz ben ora-ya ulaş-amaz-dı-m.
あなた 教える-NEG-COND-PAST COP-2PL 私 そこ-DAT
着く-IPSB.AOR-PAST COP-1SG

反実仮想をあらわす形式には時制の区別がないため、(21) と同じく条件節に「仮定形+過去のコピュラ」、帰結節に「中立形+過去のコピュラ」が用いられている。

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている。

Şehir merkez-in-e git-mek isti-yor.
町 中心-POSS.3SG-DAT 行く-VN 欲する-PRES

(6) と同じく、動名詞（語幹+ *-mAK*）と動詞 *iste-* 「欲する」とによる。

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

Ben de iç-ebil-ir mi-yim?
私 も 飲む-PSB-AOR INT-1SG

1 人称命令の形はない。(7) で見た自分の意志を表す形（語幹+ *-(y)AyIm*）もここでは使えないため、(1) の許可を表す形の疑問にあたる「私も飲んでもいいですか」を用いて表現されている。⁸⁾

⁸⁾ 日本語と異なり、トルコ語の使役動詞 *içir-* 「飲ませる」は通常「許容使役」には用いることができない。

(25) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

Bun-u o götür-sün.
これ-ACC 彼 持って行く-IMP.3SG

-sInはいわゆる3人称命令の接尾辞である。cf. (10)。また *Allah koru-sun*. 「アッラー守りたまえ」のような表現でも同じく3人称命令形が用いられる。

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

Masa-nın üst-ün-de-ki tatlı-yı sonra ye-Ø / yi-yin.
机-GEN 上-POSS.3SG-LOC-ki 菓子-ACC 後で 食べる-IMP.2SG / 食べる-IMP.2PL

いわゆる「遠未来命令形」は存在しない。

(27) もっと早く来ればよかった。

Daha erken gel-se-ydi-m iyi ol-ur-du.
もっと 早く 来る-COND-PAST COP-1SG よい なる-AOR-PAST COP

反実仮定の構文による。文頭に *keşke* (英語の 'if only' に相当) を置いた *Keşke daha erken gel-se-ydi-m* は、条件節の部分だけで「もっと早く来ればよかったのに」を意味する。

(28) あなたも一緒に行ったら (どうですか)。

Sen de beraber git-se-n nasıl ol-ur?
あなた も 一緒に 行く-COND-2SG どう なる-AOR

帰結節にあたる *nasıl olur* 「どうですか (どうなりますか)」は通常は省略できない。一方、仮定形2人称に一種の小辞である *A* (正書法では続けて書かれる) が後続した *Sen de beraber gel-se-n-e* は「君も一緒に来たら; 一緒においでよ」のように促しの意味で用いられる。また仮定形1人称の疑問形も帰結節なしで用いることができる:

Saat geç ol-du, artık git-se-k mi? 「時間が遅くなった。もう行こうか」(時間 遅い なる -PAST もう 行く-COND-1PL INT)。

(29) オレがそんなこと知るか。

Ben böyle bir şey-i nasıl bil-eyim!
私 このような ひとつの こと-ACC どうやって 知る-OPT.1SG

この場合、疑問詞を含まない文は作れず、疑問詞を用いて「そんなことをどうやって知ろうか」のように表現される。ちなみに否定疑問文による *Bil-mez ol-ur mu-yum?* は「(私が)知らないはずがあるだろうか」(知る-NEG.AOR ある-AOR INT-1SG) という反語表現である。また *Hiç böyle bir şey olur mu?* 「このようなことがあるだろうか」のような反語の文も可能である。

(30) これを作った (料理した) のは、お母さんだよ。 いいえ、私が作ったのよ。

Bun-u	anne-n	pişir-di,	değil	mi?
これ-ACC	母-POSS.2SG	料理する-PAST	でない	INT
--- Hayır, ben yap-tı-m.				
	いいえ	私	作る-PAST-1SG	

否定辞 *değil* と疑問の小辞 *mi* による *değil mi?* 「違いますか」は同意を求める表現としてよく用いられる。最初の文を日本語同様に分裂文で表わせば *Bun-u pişir-en anne-n, değil mi?* (これ-ACC 料理する-PART 母-POSS.2SG でない INT) となる。

略号

ABL	奪格	NEG	否定
ACC	対格	OBLG	義務
AOR	中立(形)	OPT	願望
COND	仮定	PART	分詞
COND.COP	条件のコピュラ	PAST	過去
CONJ	接続詞	PAST COP	過去のコピュラ
CONV	副動詞	PL	複数
DAT	与格	POSS	所有接尾辞
EV.COP	証拠性のコピュラ	PRES	現在
FUT	未来	PSB	可能
GEN	所有格	SG	単数
IMP	命令	VN	動名詞
INT	疑問	1	1人称
IPSB	不可能	2	2人称
LOC	位格	3	3人称
MOD	叙法の付属語		

参考文献

Göksel, Aslı and Kerslake, Celia 2005. *Turkish. A Comprehensive Grammar*, Routledge, London.